補助金・交付金 チェックシート(No.1)

補 助 金 名 (交付金名)	函館豆記者交歓会運営事業補助金	開 始 年 度	昭和53年度
団 体 名	函館豆記者交歓会		
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	函館市補助金交付規則		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	青少年の健全育成の一環として、函館の豆記者交歓会(小学校高学年)を沖縄をはじめ根室、釧路(北方領土)、東京などへ派遣し、取材活動および沖縄の豆記者交歓会と親善交歓を行う。
目 的	(目 的) 青少年の健全育成のため
• 効 果	(効果) 子ども達を日本各地に派遣,生活産業・文化・教育施設等を視察取材し,現地の子ども達と交流させる事業は,次代を担う青少年の豊かな情操と自主性・協調性の涵養に多大な効果を上げている。

○補助事業の収支状況

(単位:千円)

	年 度	助府	戈 金 その他	事業収入	会 費	繰越金	雑収入	計	
収	23	300	150	215	456	0	1	1, 122	
	24	300	250	150	324	0	1	1, 025	
	25	300	250	303	324	0	0	1, 177	
入	26	300	250	196	3, 069	0	0	3, 815	
	27	300	250	177	2, 577	0	0	3, 304	
	年 度	人件費	事務費	事業費	上部団体 負担金等			計	
支	23	0	80	1,042	0			1, 122	
	24	0	81	944	0			1, 025	
	25	0	78	1, 099	0			1, 177	
出	26	0	101	3, 714	0			3, 815	
	27	0	99	3, 205	0			3, 304	

補	助	金	名
(3	ど付	金名	去)

函館豆記者交歓会運営事業補助金

○基本的視点の再チェック

	基本的視点	適	不適	説明
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献 する事業 ②市民ニーズが高い事業	> >		市内の豆記者を北方領土取材をはじめ沖縄,東京に派遣し,各地域の豆記者との交歓や取材を通じ,人間性の向上を図るとともに青少年の健全育成に寄与するものである。
2	必要性 (補助しなければならない事業であるか)	✓		子どもたちに各地を視察する機会を与えることは 社会的視野を拡げるために有意義な事業であり、補 助金の削減等は事業の縮小にも繋がるおそれがあ る。
3	自主性(自主自立に向け努力してい るか)	7		新聞等に豆記者募集について掲載するなど、豆記者の会員増に向け努力している。また、基金等を活用し、財源の確保に努めている。 青少年の貴重な体験学習の場を提供するものであり、補助金の継続が無ければ今後の活動は厳しく、青少年の貴重な体験の場を奪うことになる。
4	有効性(他の手法ではなく補助する ことが,施策目的実現に最適か)	~		青少年の貴重な体験学習の場を提供するものであり、補助金の継続が無ければ今後の活動は厳しく、 青少年の貴重な体験の場を奪うことになる。

○財政的視点のチェック

	財 政 的 視 点	不適	不適の場合の理由と今後の対応について
1	積算内訳は, 前年踏襲となっていないか		
2	補助金等の使途は適切である		
3	積算基準は定められている	✓	定額の補助金額で継続しているため,今後,補助対象経費の見直しを図り,積算基準額を明確にする。
4	補助割合は,補助対象経費の1/2以内で ある		
5	前年度繰越金は生じていないか		
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保している か)		
7	経常経費の節減に努めているか		

[※]適・不適であっても、説明欄は必ず記載してください。

[※]不適の場合は、説明欄に必ず記載してください。

補	助	金	名
(3	ど付	金名	롤)

函館豆記者交歓会運営事業補助金

○補助効果の検証

(効果測定方法, 具体的な数値等)

子ども達を日本各地に派遣、生活産業・文化・教育施設等を視察取材し、現地の子ども達と交流さ せる事業は,次代を担う青少年の豊かな情操と自主性・協調性の涵養に多大な効果を上げている。

(達成状況)

- ・東京・北方領土派遣 7月~8月(東京取材班17名,北方領土取材班11名) ・沖縄派遣 12月(平成27年度 取材班11名)
- ・函館豆記者研修 6月 (北海道新聞社とふるる函館で研修)
- ・記録文集「羽ばたき」発刊

※継続事業は、直近の実績 新規事業は、効果のみ記載してください。 (評 価) (理由) 全国各地域への派遣は子ども達の自立心を向上させる 十分効果をあげている \checkmark とともに、社会見聞を広めるのに役立った。また、他地 一定の効果をあげている 域の豆記者との交流といった貴重な機会の提供がなされ 効果が疑問である ている。 その他

○今後の方向性

	現行のまま補助を継続		(見直しの内容) 収支状況を再確認し、補助金の縮減に努めるととも
>	見直したうえで補助を継続	+	に、積算基準額を明確にする。
	廃止		
	その他		(見直しの時期) 平成30年度
(廃山	この理由)		(その他の内容)
(廃』	この時期)		

○終期の設定

終期設定		終期到来により廃止	次回チェック年度(予定)
平成30年度	7	終期到来時に再検討	平成30年度